様式６〔申し合わせ事項１－（５）〕

2019年8月　2　日

東員町議会総務建設常任委員会
委員長　　太谷勝治　様

東員町議会総務建設常任委員会

委員　大　崎　潤　子

研修報告書

研修期間	2019年7月22日（月） ～　7月23日（火）【　2　　日間】
研修（視察）先	・熊本県益城町 ・熊本県熊本市
目的（テーマ等）	●　災害によるライフラインの復旧について ●　水源かん養地対策についての取り組みに
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

東員町議会 受付 -1.8.-2

〔委員（議員）氏名：　大崎潤子〕

7月22日(月)、益城町の視察は、当日の大雨警戒警報により中止になりました。

7月23日(火)、世界に誇る地下水都市熊本(人口約74万人)で、水源涵養地対策の取り組みについて研修しました。

平成25年3月熊本市は日本で初めて、国連“生命(いのち)の水”最優秀賞を受賞しました。74万市民の水道水源のすべてを地下水で賄う「地下水都市・熊本」です。

・熊本地域の大地は阿蘇火山の4度の大噴火によって出来上がりました。この地層は隙間に富み、水が浸透しやすい特徴があり、地域に降った雨は地下水になりやすく、地下に豊富で良質な水が蓄えられています。阿蘇山によって「世界に誇れる地下水都市・熊本の土台が出来上がりました。

・加藤清正公による白川中流域に大規模な水田開発を行い、水田から大量の水が地下に浸透し、地下水はますます豊富になりました。

・豊富な地下水に恵まれる熊本地域ですが、都市化の進展やコメの生産調整・減反政策などによって涵養域が減少したことから、地下水域は長期的にみると減少傾向にあるようです。また、一部地域で硝酸性窒素濃度の上昇傾向がみられる（農産物の施肥や家畜の排せつ物などの影響）とのことです。

・地下水を守る「熊本市地下水保全条例」を制定。

・毎年250本の井戸で地下水質測定をし、地下水浄化等保全対策を推進。施肥や家畜排泄物などの対策として堆肥センターをつくり水質保全に取り組んでいる。

・白川や緑川などの河川上流域で水源涵養林の整備、白川中流域では地元農家の協力を得て転作田を活用した水田湛水事業を実施している(平成23年470戸でピーク、平成28年は地震で急激に落ち込み190戸、平成31年度291戸、5月から11月の間は田んぼに水を張ることで10アール当たり１カ月１１，０００円、２カ月１６，５００円、3カ月２２，０００円の補助)。

・“くまもと水守”制度(190名)、水の大切さや水の文化を守ったり、PRしながら人材育成や情報提供を行っている（遊水地の清掃やイベント時のガイドなど)。

豊富な地下水を守るための水質保全への取り組みとして、水源涵養林整備事業など、他市町との連携強化についても説明を受けました。

＜所感＞

阿蘇山によってもたらされたミネラルウオーター。その地下水を大事に守ってきた歴史を知ることができました。その歴史を今も守り、さらにあらたな硝酸性窒素による地下水汚染への取り組み強化など学ぶ点が多々ありました。特に、水源涵養林は1市2町で協定を結んで取り組んでいることです。東員町は、涵養地はいなべ市にあります。地下水の低下もみられます。他市町との協議の大切さを感じました。これからすぐに取り組むべき課題の一つだと思いました。また、転作田に水を張り地下に浸透させる事業や家庭に雨水浸透桝の設置に対する補助制度は検討する余地があると思いました。

町内の井戸の水質検査も町で行い、災害時に利用できるかどうか、調査の公表も大切だと思いました。

〔委員（議員）氏名：大崎潤子〕

飲料水として利用できるもの、一般用として利用できるもの、企業の井戸水の提供はどうなるのか等、地図上に明示することで町民の安全安心につながると思いました。

東員町の美味しい水を守っていくためのヒントがたくさんあった研修でした。